

令和2年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<p>1 一人一人の児童生徒の尊重</p>	<p>2 友達への思いやり</p>	<p>3 道徳・心の教育の充実</p>
<p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p>	<p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>
<p>【学校から】○【一人一人の児童生徒の尊重】昨年同様、肯定的に捉えている割合が8割以上である。しかし、保護者・生徒の「4」の割合が昨年度よりも減っている。今後も今以上に日常からの関りを大切にしていきたい。○【友達への思いやり】9割以上、教師においては100%が友だちと仲よくしていると考えているが、生徒・保護者の4%ほどはどちらかというと思わないと感じている。教師が気が付かないところでつらい思いをしているかもしれないという危機感を常に持って教育に取り組む必要がある。○【道徳・心の教育の充実】保護者・教職員ともに肯定的に捉えている割合が高く、充実していることが伺える。今後も情報発信を積極的にを行い、毎週行われる道徳科の授業だけでなく、教育活動全体を通して、生徒たちの心をはぐくんでいきたい。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進

<p>4 意欲的な学習態度</p>	<p>5 授業力向上</p>	<p>6 ICT活用</p>
<p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
<p>【学校から】教職員の授業作りの工夫により生徒は意欲的に学習に取り組め、保護者の評価も高まっている。また分かりやすさについても生徒が[3][4]の合計が8割を越え、保護者も9割近いと、高い評価を得ている。しかし、一部生徒は意欲的になれていない。また同じような割合で、授業の分かりにくさを感じている生徒もいる。大部分がわかりやすさを感じ、意欲的に学習に向かっているからこそ、個に目を向けられるというICTの特徴を活かす工夫をしていきたい。更に分かりやすく生徒が興味を持って授業を展開していくために、ICTの活用を進めたい。そのために外部機関とも連携した校内研修などを取り入れ、教師のスキルアップに努める。加えて、より生徒が見通しをもって分かりやすい学習環境を整えるために「授業の心得」を作成していきたい。</p>		

③健やかな体を育む教育の推進

<p>7 健康づくり</p>
<p>子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>
<p>【学校から】○教師は6割程が食事、運動、睡眠に気をつけていると感じているが、生徒・保護者はどちらも7割強が気をつけていると感じており、認識にずれがあるようだ。学校教育全体で、生徒・保護者へ啓発を行い、自己健康管理能力の育成に努めたい。</p>

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

<p>8 児童生徒理解</p>	<p>9 いじめや問題への対応</p>
<p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。</p>	<p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>

②特別支援教育の推進

<p>10 学校の支援体制</p>
<p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>

【学校から】○【児童生徒理解】については、昨年度より生徒・教職員において「3」・「4」が減っている。コロナの影響もあり、保護者との連携の場も減っており、情報共有が難しい状況になっているからだと思う。【いじめや問題への対応】についても保護者・生徒ともに「4」の割合が昨年度より減っている。いじめ又はいじめにつながる事象については、丁寧な対応をすることで時間がかかり、解決に時間がかかっている場合があった。○【学校の支援体制】各学級において様々な方法で支援に取り組んでいる。中学校卒業後の生活を見据えて教育相談の充実を図り、本人や保護者とも十分連携してより良い支援体制の構築をさらに進めていきたい。

①子どもたちの身近な安全対策の充実

<p>11 安全と事故防止</p>
<p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>
<p>【学校から】○日頃から様々な機会をとらえて安全教育に取り組んできた。今後も、危機意識を持ち、安全のための行動ができるような働きかけを行ってきたい。</p>

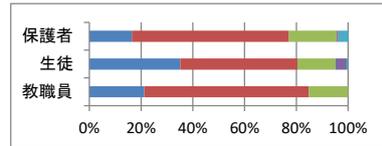
②最適な学習環境の整備

<p>12 施設・設備の安全管理</p>
<p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p>
<p>【学校から】○昨年度とあまり変わらない状況である。点検時に不備があればすぐに改善し、施設・設備の安全を保つようになっている。今後もスピード感を持って対応に当たり、引き続き安全の確保に努めたい。</p>

③家庭・地域社会との連携強化

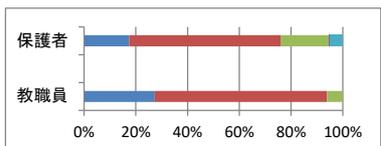
13 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

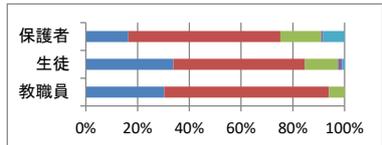


【学校から】○肯定的に捉えている保護者の数が下がっている。今年度は、学校に来ていただく機会が激減し限られた中で活動している影響があると捉えている。ICTを活用しながら取組を進めてきたが、今後もこの新しい生活様式の定着を軸に工夫していきたい。また、学校総体として課題解決に取り組み、家庭や地域に信頼される学校として生徒の変容した姿で答えていきたい。

⑧本校の教育

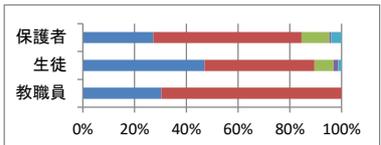
15 1

学校は、確かな学力の向上に向けて、基礎・基本の学力の定着を図る取り組みを行うとともに、協働的な学習やICTを活用した授業づくりに積極的に取り組んでいると思いますか。



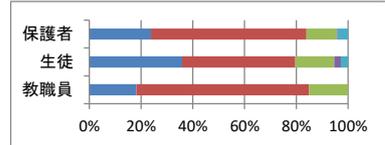
16 2

学校は、体育の授業や体育的行事、部活動等を通して、体力の向上を図るとともに、部活動の活性化に努めていると思いますか。



17 3

学校は、地域と連携した教育活動の充実を図るとともに、地域の美化活動や緑化活動に貢献していると思いますか。



【学校から】確かな学力の向上に向けた取組に対する保護者の肯定的な割合が、8割を切っている。年度当初に休校があり、学校を再開し適切に取り組んできたものの学力向上に関しては保護者が不安を感じていることだと捉えている。コロナ禍で教科によっては学習活動に制約があるなかで、ICTを活用するなどして、生徒が不利益を被ることがないように最善を尽くしている。また、これらの取組に関しては、いろいろな場や媒体を通して広く発信して生きたい。今後も西山中学校の特色ある活動に地道に取り組み、生徒の活躍の場を確保し、心身共に成長できる支援を積極的に行っていきたい。

来年度の具体的な取り組みについて

○教育目標・方針については、年度当初のPTA総会や学年保護者会等のPTAの諸会合で説明するとともに、家庭や地域と連携した取組について理解と協力を得られるようにすることを基盤に、今年度同様、継続して学校・学年便り、ホームページ、PTA新聞、諸団体会合などあらゆる機会を通して情報発信を行う。

○研究モデル校として、タブレットの活用に取り組む。そこで、学力の向上に向けて、ICTの活用を通して授業改善に本年度以上に取り組む。また、この取組が家庭に伝わり、家庭学習の充実に向けた取組（「生活時間の固定」・「黄金のサイクル」・「わかぼうテスト」）を継続して行い、家庭との連携を強固にする。さらに、道徳授業についても研究実践に協働して取り組み、学習形態の工夫や評価の充実を図り生徒一人一人の心を耕す。加えて、生徒の実態や学力状況を分析し、指導の工夫改善に努める。

○生徒会を中心に、生徒の自治的・主体的な活動を活性化させ、いじめを絶対許さない、いじめのない、より楽しく安全な学校づくりを目指す。

○今年度の部活動加入率は61.3%で、日々活発に活動している。来年度は加入率の目標を7割程度とし、部活動生が学校生活においても主体的にリードし、「文武両道」の精神を学校全体で醸成するような実践へとつなげていく。また、部活動のキャプテン会を効果的に機能させ、部活動集会をより活性化させることで、より主体的な活動を目指したい。

学校関係者評価

○多くの項目で、肯定的に捉えている人数の割合が昨年度より低下している。コロナ禍により、各行事の中止や規模縮小があり情報共有や連携といった部分で、難しい状況であったことが考えられる。特に、保護者は生徒を通して学校の様子等を把握するしかないため、得られる情報も昨年度と比べると限定的になったところがある。だからこそ、生徒への伝え方や表現の工夫等に取り組む必要がある。

○「いじめ問題があったとき、すぐに話を聞いて対応している。」では、教職員と生徒・保護者の捉え方に10%以上の差がある。これまで以上に丁寧に取り組んでいくことはもちろんであるが、スピード感をもって対応していく必要がある。

○「好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活している。」では、食事と体力づくり、そして生活習慣に関する問いとなっており、回答が難しいのではないかと。また、生徒・保護者の肯定的な捉え方の割合の方が高くなっており、教職員のそれと差があるため、状況を確認し対策について検討する必要がある。

○教科指導等では、一人一人のニーズに応じた教育活動の工夫が見られた。タブレット活用の研究モデル校として、公開授業や授業参観でも先生方の工夫や努力が子どもたちの力を伸ばしていることが実感できた。

○タブレット等のICTによる学びやコミュニケーションも含めて、何がどの場面で効果的かをしっかりと見極める必要がある。